

ステークホルダによる 合意形成方法の提案

Group J5

2009SE077 石田雄大

2009SE202 濁川 誠

目次

- 今回の発表の動機
- 合意形成プロセスの変更
- 合意形成プロセスの比較
- 優先度付けプロセス(アンケート)
- 今後の方針
- 参考文献

今回の発表の動機

前回の発表

- 優先度付けプロセスの発表.
- ゴールの振り分け,ゴール間の関係の表現方法の発表.



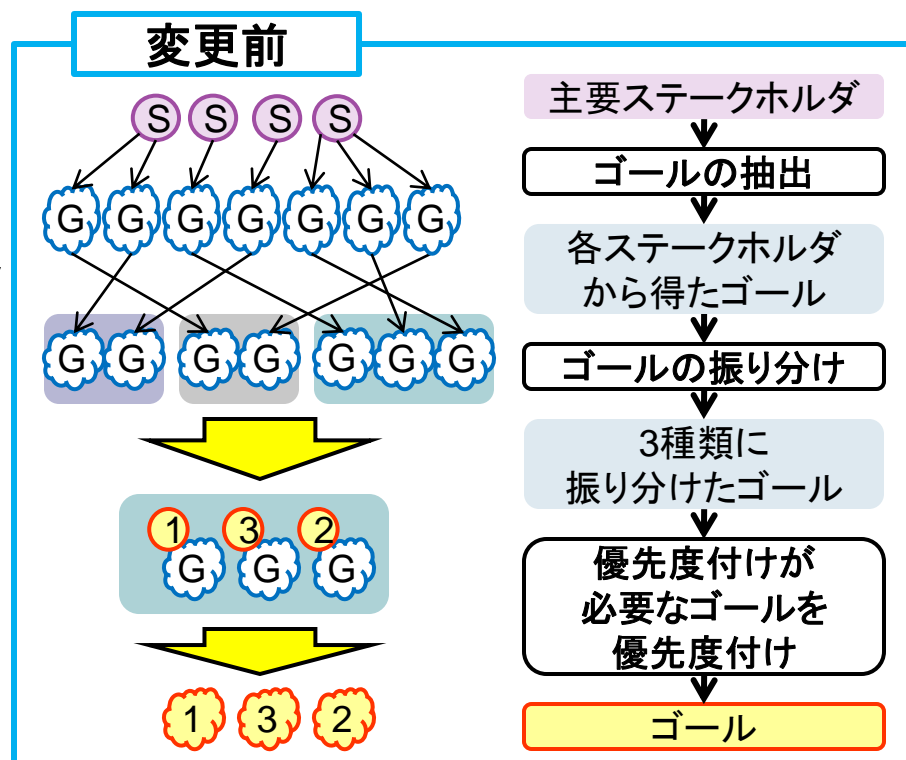
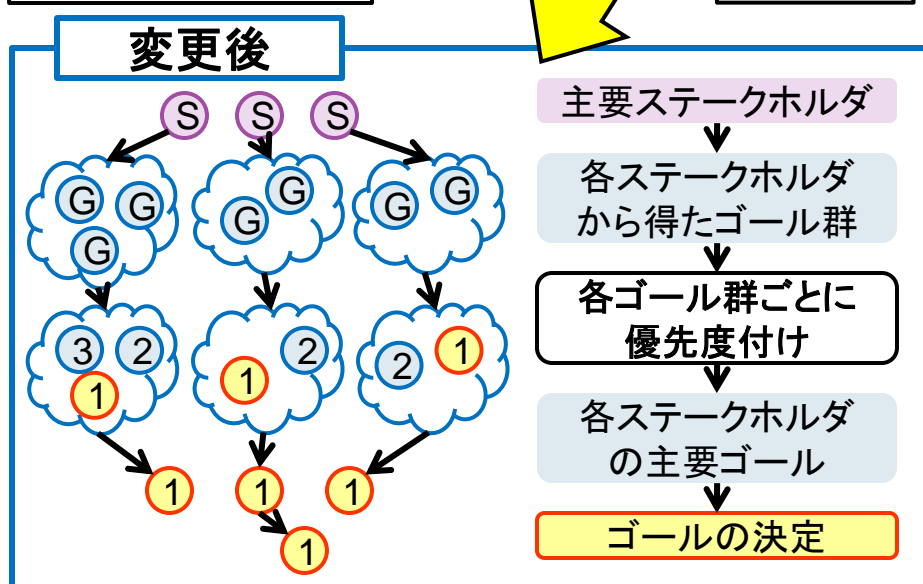
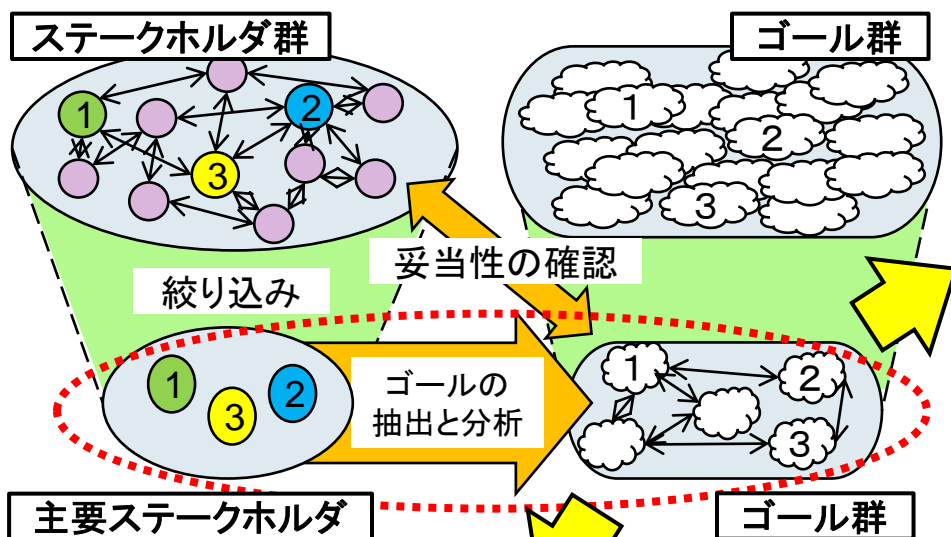
- ◆ゴールの振り分けはしないプロセスに転換.
- ◆ゴールの抽出は要求が抽出されていることにより必要ないことが判明.

今回の発表の動機

- 合意形成プロセスの変更
 - どこのプロセスで優先度付けを行うのかの変更を述べるため.
 - ゴールを選択方法の違いを述べる.
- 合意形成プロセスの比較
 - 優先度付けを行う段階の違いを述べる.
- 優先度付けプロセス(アンケート)
 - ステークホルダの持つゴールに優先度を付加し,ゴールを絞り込む為の手法を紹介.



合意形成プロセスの変更



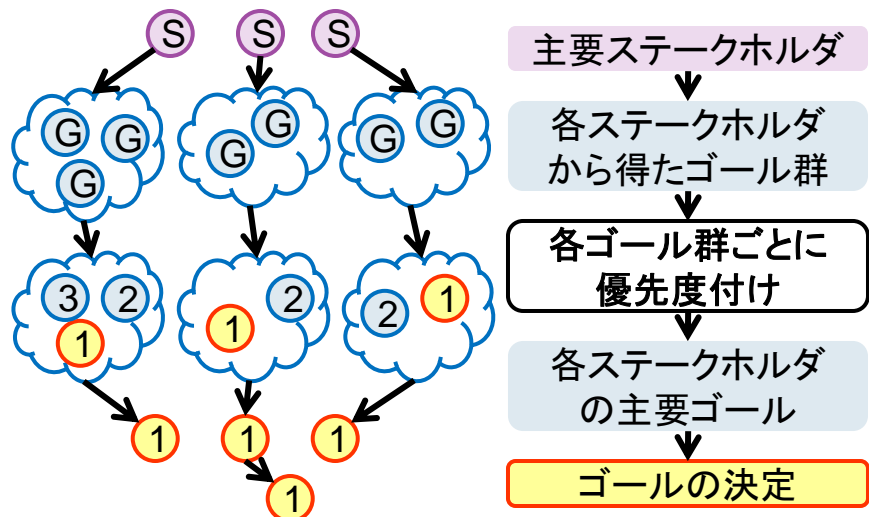
異なる点

- 変更前→振り分けられたゴールの全体で優先度付けを行う。
- 変更後→各ステークホルダから抽出する各ゴール群毎に優先度付けする。

合意形成プロセスの比較(1/2)



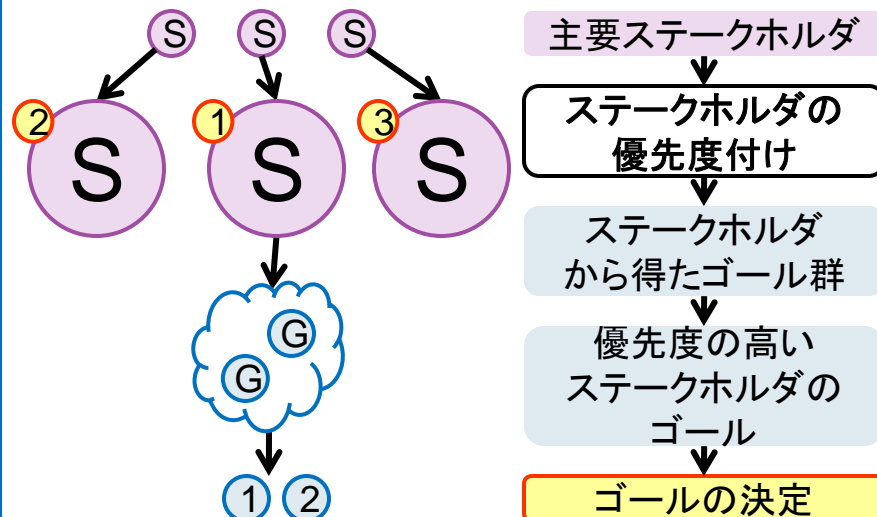
比較対象1



- 各ゴール群のゴールに対して優先度付けを行うことで各ステークホルダのゴールを1つ決定。
→各ステークホルダ毎にゴールが決定する。
- 各ステークホルダから抽出されたゴールに対してステークホルダの関係性を考慮に入れた評価を行いゴールを一意に決定する。



比較対象2

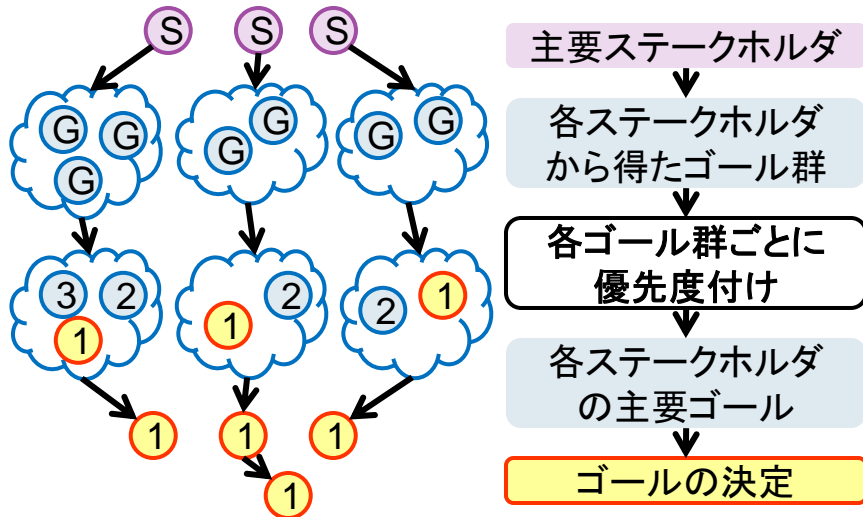


- 木下・山下先輩の絞り込みではステークホルダに優先度が付けられていないため優先度を付ける。
→ステークホルダの優先順位が決定。
- 優先度が最も高いステークホルダが持つゴールに対して優先度を付ける。
→最も優先度の高いステークホルダが持つゴールが最も重要であるという考え方から決定。

合意形成プロセスの比較(2/2)



比較対象1



メリット

- 主要ステークホルダが持つ全てのゴールに着目することが可能。

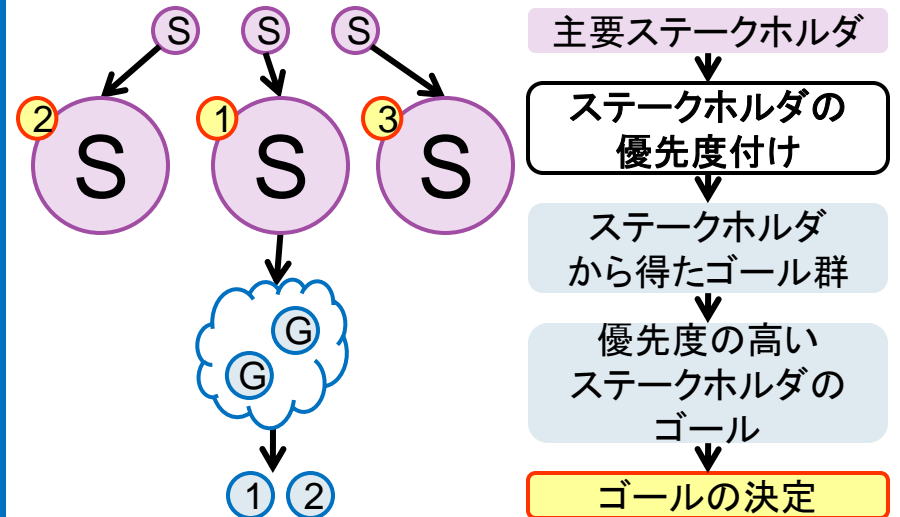
デメリット

- 主要ステークホルダが持つゴール1つ1つに着目するためコストや時間がかかる。

優先度が一番高いステークホルダ以外が重要なゴールを持つ場合にも着目可能



比較対象2



メリット

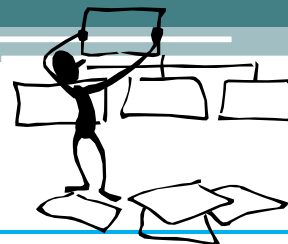
- 重要なステークホルダが持つゴールのみに着目するため、コストや時間が少なくて済む。

デメリット

- ステークホルダの優先度を重視するため、最も重要なステークホルダのゴールにしか着目不可。

優先度が一番高いステークホルダが持つゴールにのみ着目する

優先度付けプロセス(アンケート)



各ステークホルダの
1人1人に上位3位の
ゴールを選んでもらう



1位:3,2位:2,3位:1
という値を付加し,
ゴールの評価値を出す



合計値が大きい
上位3位の
ゴールを抽出



その3つのゴールに対
して再び1人1人に
順位を付けてもらう



各ゴールに値を付加し,
合計値が1番大きい
ゴールを最重要とする

各ステークホルダの優先度表

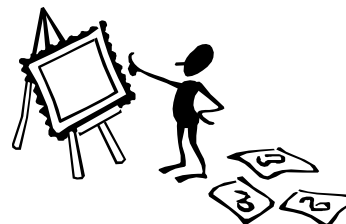
	1位	2位	3位
S1	G2	G5	G1
S2	G1	G3	G2
S3	G4	G1	G5
S4	G3	G5	G4
S5	G2	G4	G3

ゴールの評価表

	1位	2位	3位	合計
G1	1	1	1	6
G2	2	0	1	7
G3	1	1	1	6
G4	1	1	1	6
G5	0	2	1	5



1位:G2
2位:G1,G3,G4



各ステークホルダの優先度表

	1位	2位	3位
S1	G2	G1	G3
S2	G1	G3	G2
S3	G4	G2	G1
S4	G2	G4	G3
S5	G2	G4	G3

ゴールの評価表

	1位	2位	3位	合計
G1	1	1	1	6
G2	3	1	0	11
G3	0	1	3	5
G4	1	2	0	7



今後の方針

題目

「ステークホルダによる合意形成方法の提案」

- ゴールの優先順位付け方法を考える.
 - アンケート方法ではない優先度付けの発表.
 - 評価例として合宿係で試してみる.
- 実例を考え,実際に評価し,結果を出してみる.

参考文献

- 要求工学
著:大西 淳・郷 健太郎
- 要求工学知識体系 (REBOK)
- 2012年度卒業論文要旨集
「ステークホルダを中心とするゴール分析方法の提案」
- ゴール指向によるビジネス活動の要求定義
著:山本 修一郎